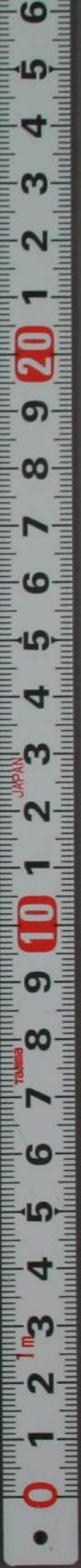


全
自
至
同
十
年

100
600
114



門管
號 600
卷 114



升者 吾為
月次 弟四席

俳諧之連歌百韻

辰卯月 日台 蘓山亭
無行 表句 月七 打 殆
執筆 吟

各十五句言

河樂評 者亮亭君 西評



羅文 馬琴

時得

催至

蘓山

○雪萬評

△春花亭

凡兆子少評

楊貴妃も此女子

眠る気

桐の花

山

花—い風の流る

文意と画のそとに

象又の様が又も

片木板の後の白く

山望る気

刺りや、中編の

権の舞を山の子

智の君より見る人ノ秋

あまの女を檢校の書

是のんを何を乳のお覚らせ

柳希より片よ年を治す

此周の由れの神を研ま

こゝを居て清い

此のむちふる来世を

△車

△

時得
此
蕪
了
蕪
所

凡志あるハせる事并り

水鏡を筆にのり水鏡

酒を飲ぶ人々

家語の友の正しぬ十年

新撰北使と佳の廳子

花はぬまも

夢の秋

つ
つ
つ
つ
つ
つ
つ
つ

佳子 膏 功 口 出 三
 翁 用 亦 子 僕 々 乃 之
 子 或 也 又 々 子 復 々 石
 飛 々 然 々 急 々 印 律
 今 只 亦 孰 白 髪 々 々 々 々

山 松 琴 山 將 文 山
 三 二 一 〇 九 八 七 六 五 四 三 二 一 〇

横 亦 亦 亦 乃 乃 乃
 他 佛 上 光 中 亦 亦 亦 亦 亦
 治 神 々 乃 利 々 々 々 々
 十 一 月 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 加 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々

肥 子 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々

山 松 琴 山 將 文 山
 三 二 一 〇 九 八 七 六 五 四 三 二 一 〇

ず
 借あるう...
 折...
 ち...
 ち...
 ち...
 ち...
 ち...
 ち...
 ち...
 ち...
 ち...

探...
 切...
 吉...
 淡...
 中...
 中...
 中...

存りの煙いりまよ
 邪と五 暖五 積五
 栴檀乞の車致るし
 地底の海ほも
 而凡よりさるれぬ
 船より舟も陸のあはら
 しくは事な五 宿の集の部五

七
 七
 九
 九
 九
 九

此お喰へし位十
 美のあもぬきう十
 弱牙と見えぬ所十
 菅簍十
 おりるれ十
 乾糸の鳴も十
 ちも十

十
 十
 十
 十
 十
 十

縣 舊る長七 屋浦の豊の秋 十
抱の鑑治も 孫六 十
罪み余る候し 振四民 十
判と斗く 喰く 托疎 九
君代也 海子 上 希の 十
書何の 骨立とも 申子 十
子 吞 詠の 難の 十
十

虫み 朽し 報神の 十
仲年 隆子 幼る 十
二りの 月 平 十
老を 好る 九人の 十
舟 舟 舟 十
おし 十
十

神寶しと~~た~~せ~~る~~ん~~ん~~ふ~~ふ~~ま~~ま~~難~~難~~の~~の~~と~~と~~

明~~明~~ス~~ス~~の~~の~~御~~御~~症~~症~~と~~と~~妹~~妹~~の~~の~~風~~風~~息~~息~~れ

杣~~杣~~の~~の~~琴~~琴~~を~~を~~な~~な~~ふ~~ふ~~風~~風~~の~~の~~ふ~~ふ~~り~~り~~子~~子~~琴

お~~お~~ま~~ま~~の~~の~~る~~る~~り~~り~~し~~し~~る~~る~~ま~~ま~~子~~子~~中~~中~~か~~か~~を

然~~然~~取~~取~~の~~の~~逢~~逢~~の~~の~~九~~九~~字~~字~~玉~~玉~~の~~の~~混~~混~~布~~布~~れ

虫~~虫~~を~~を~~り~~り~~し~~し~~こ~~こ~~こ~~こ~~い~~い~~根~~根~~絶~~絶~~

か~~か~~り~~り~~し~~し~~る~~る~~湯~~湯~~治~~治~~も~~も~~え~~え~~る~~る~~毒~~毒~~を~~を~~ん

れ~~れ~~の~~の~~た~~た~~と~~と~~し~~し~~た~~た~~ま~~ま~~は~~は~~な~~な~~し~~し~~る~~る~~た~~た~~ま~~ま~~は~~は~~な~~な~~し~~し~~る~~る~~

之~~之~~ま~~ま~~好~~好~~瑞~~瑞~~子~~子~~積~~積~~の~~の~~か~~か~~ら~~ら~~絶~~絶~~

七~~七~~二~~二~~癖~~癖~~の~~の~~好~~好~~き~~き~~入~~入~~る~~る~~る~~る~~七~~七~~一~~一~~絶~~絶~~は~~は~~

英~~英~~法~~法~~の~~の~~甘~~甘~~店~~店~~あ~~あ~~と~~と~~に~~に~~く~~く~~る~~る~~れ

ち~~ち~~の~~の~~こ~~こ~~る~~る~~蕎~~蕎~~麦~~麦~~綿~~綿~~の~~の~~あ~~あ~~ら~~ら~~さ~~さ~~る~~る~~琴

肩~~肩~~を~~を~~な~~な~~り~~り~~し~~し~~る~~る~~は~~は~~な~~な~~ま~~ま~~り~~り~~る~~る~~琴

井~~井~~戸~~戸~~の~~の~~子~~子~~又~~又~~じ~~じ~~る~~る~~る~~る~~月~~月~~の~~の~~歌

あ~~あ~~ら~~ら~~し~~し~~る~~る~~た~~た~~ま~~ま~~は~~は~~な~~な~~し~~し~~る~~る~~月~~月~~の~~の~~歌

あ~~あ~~ら~~ら~~し~~し~~る~~る~~た~~た~~ま~~ま~~は~~は~~な~~な~~し~~し~~る~~る~~月~~月~~の~~の~~歌

近き子男自悟のまじり
 入集二石一
 上集のまじり
 乾押極一
 山子海諸の加減
 友恒子洞のまじり
 志

五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五

鯉鱗

寛文拾月
 旨

仙水亭

神代文
主

志

碎

神
田

糸水むり具乃古巻襖之

白子乃襖も沙千の左端

こゝに五所 一 昔ねえ合

物之上千るるをよの

疏沙の

丁胸子十葉の腕のたてりて

力自是也此の垣るは是李如

三條子しりあさりの星路子ら

いんぢのい膏有也あるを

敵討をいんぢのたてりて

心あは極りあは極りあは極り

淡船と滑りも極りあは極り

淡船と滑りも極りあは極り

蝸牛中眼透りあは極り

おくれい子と事と別れ

九重いんぢの垣るは是李如

九重いんぢの垣るは是李如

九重いんぢの垣るは是李如

糸拵乃傳この糸この糸こ

机の服この機この丸こ

跡この糸この糸この糸こ

笥の程こを摺こを糸こ造こ

懐この内この糸この糸こ

互この糸この糸この糸こ

糸この糸この糸この糸こ

二七この糸この糸この糸こ

糸この糸この糸この糸こ

糸この糸この糸この糸こ

糸この糸この糸この糸こ

糸この糸この糸この糸こ

糸この糸この糸この糸こ

追々々々 旋りとおむらるる

夕月を横子増のきりく

五月の月深きみちのえん

何れもあけく棹

高き山をまると碑

花のつぼみ 波のうねり

判者 野逸

附樂評

東舎

西判

孤 旋

島 文

月次 詠 予 五 席

百 般 年

中 後 止

辰五月十六日時得亭無行

表八句月花打以年

各十五句

催 至 時 得

○野逸評

△東舎評

捨四

皆

子

留

し

所得

をうるし清み

二

筆を急ぐ子孫に本は

あつとくおまわく一の願

やまゝお淋しき一

世をふり九転をいふ

厨師をまふわ

月をまふ

おまわく清いおま

秋風

一 河津の桜風を吹く由をひまの櫻 孤庭

一 花よりまじくまじく縁池 時を

六 夕の日の暮あを割いさるる 意

一 瓶に以年一印 了

一 筆腹をよやの煙の粒 了

一 小舟のあまをたのむ 九

七 又も返る松のあまは魔界不の隈 了

四 舟の橋の風を流し 帆に

一 命をぬる玉細玉流し 海流

一 新の気 は

一 枝 は

一 布衣 は

一 花 は

一 能 は

朝鳥子任の集乃の力

六 柳の意地を受る旅

五 柳の埃よりくちを

四 柳の陵とわく泥

三 柳の柳と遊ぶ

二 老有木の隅に鶴鶴の羽

一 老有木の隅に鶴鶴の羽

12 12 12 12 12 12

一 老有木の隅に鶴鶴の羽

二 深き結衣の師を

三 公事し、流る溜る

九 柳の意地を受る旅

八 柳の埃よりくちを

七 柳の柳と遊ぶ

六 柳の意地を受る旅

五 柳の埃よりくちを

四 柳の柳と遊ぶ

三 柳の意地を受る旅

二 柳の埃よりくちを

一 柳の柳と遊ぶ

12 12 12 12 12 12

二 勝軍法おのゝとて民をさしれりう 六

一 石中の伝の軒 六

一 詩とつて傳は院羅尼の傳カキ 六

一 詩の印伽の長耳也 六

一 横唱の歌 六

一 書りおのゝ十 七

一 書りおのゝ十 七

五 娘のお老りし雨露の霞 七

二 化粧の糸所子 七

二 了る道中 六

二 杉中候 六

四 首塚 六

二 とうし 六

一 赤れ 六

一 赤れ 六

素心毫々春屋よるあゝまのん 七

長帯飾るおのの明る鳥の 九

神后の御陣の酒宴あるまめささる 七

華今の糸布と云のねりむ 九

甜豆袋の張りふするの原 九

糸あまをささるゆのせらる 九

佛銀の刀月一と云と云と云 九

作ふ孤貝と洗馬を 七

二重あたる椽よさるの尻の程 九

二重あたる椽よさるの尻の程 九

作ふえ糸と帯のあいの所 九

九目片よりむきい 九

月のふりふり糸と云 九

秋のあまの糸と云と云 九

△幸△ 四

神和の白く回りの汗を
十一

家習定まぬ乳母の張射
十九

傳ち鷹の樹と古ふと川を
十九

佛法僧の啼と多ふ子
十九

其のゆと水のちり清の声
十九

ぐぐの力と人とのとく
十九

ふ下の物と世と衣と
十九

⑤ 再考十

吟と合ふる
十一

粥を喰ふ多ふお
十一

一 宿てふ丸
十一

④ 連子花と狐の宮と
十一

二 花と境の屋を
十一

一 鳥と衣と
十一

一 声と
十一

一 声と
十一

一 雪の行ふは 一 係る
 七 勅使の来り 一 和膳
 一 山内府より 一 首の御
 一 澁澤子 一 強了
 一 大別も 一 日の嵐
 一 胡蝶 一 あり
 一 げろの 一 老は
 一 草の 一 地
 〇 馬琴 四十一
 〇 馬琴 四十二
 〇 馬琴 四十三
 〇 馬琴 四十四
 〇 馬琴 四十五
 〇 馬琴 四十六
 〇 馬琴 四十七
 〇 馬琴 四十八
 〇 馬琴 四十九
 〇 馬琴 五十
 〇 馬琴 五十一
 〇 馬琴 五十二
 〇 馬琴 五十三
 〇 馬琴 五十四
 〇 馬琴 五十五
 〇 馬琴 五十六
 〇 馬琴 五十七
 〇 馬琴 五十八
 〇 馬琴 五十九
 〇 馬琴 六十
 〇 馬琴 六十一
 〇 馬琴 六十二
 〇 馬琴 六十三
 〇 馬琴 六十四
 〇 馬琴 六十五
 〇 馬琴 六十六
 〇 馬琴 六十七
 〇 馬琴 六十八
 〇 馬琴 六十九
 〇 馬琴 七十
 〇 馬琴 七十一
 〇 馬琴 七十二
 〇 馬琴 七十三
 〇 馬琴 七十四
 〇 馬琴 七十五
 〇 馬琴 七十六
 〇 馬琴 七十七
 〇 馬琴 七十八
 〇 馬琴 七十九
 〇 馬琴 八十
 〇 馬琴 八十一
 〇 馬琴 八十二
 〇 馬琴 八十三
 〇 馬琴 八十四
 〇 馬琴 八十五
 〇 馬琴 八十六
 〇 馬琴 八十七
 〇 馬琴 八十八
 〇 馬琴 八十九
 〇 馬琴 九十
 〇 馬琴 九十一
 〇 馬琴 九十二
 〇 馬琴 九十三
 〇 馬琴 九十四
 〇 馬琴 九十五
 〇 馬琴 九十六
 〇 馬琴 九十七
 〇 馬琴 九十八
 〇 馬琴 九十九
 〇 馬琴 一百

行司 雪中菴完来
 嵐亭富屋 評

月次申七會附席臨時興行

四本柱歌僊舎

春 羅文 寛政八丙辰年
 夏 藤山 四月三日之題
 秋 馬琴 同七月十六日満尾
 冬 狐遊 勸進元
 東園舎
 中人身

西評

矣附

朱書

完來矣

歲亨矣

第一春

東園舎

羅文

四 志々後や松子又母るる二 夕の雪

二 池も氷履々魚躍二 音

一 夕の雪の長閑さ欠二 如ゆらん

一 嬉二 娘小兒の音物二 々々

一 撰二 々々片月二 月の氣草

二 星々二 夕二 山二 の夕景

五 秋晴をゆく不慮の法五 春

二 子捕まのい川一 解一 かん

四 吐くやましくたふ豚十二 のころ臭九

五 凡の節も目有八 六月

四 靴癖の虫七 ぬ髪七 ともあはし

一 名のつ川五 渡も五 不五 復五 の曠

一 強飯も勢一 深一 の宮一 女一 杖

四 是一 牙一 平一 言一 洛陽一 の月

五 衣一 の夢一 の言七 西一 東一

一 い一 つ一 ま一 ち一 追一 ひ一 の一 物一 ね

二 七一 手一 八一 重一 包一 先一 の一 真一 物一

一 鶴一 の一 卵一 も一 新一 玉一 の一 音一

十
四 蓮葉の影く 舟の宿好

一 百石丸の舟中 一 五

四 舟中 一 四

一 夕られふ舟 一 舟の暮平

五 涼しき 一 舟の暮平

六 舟 一 舟の暮平 詩

八 舟よ 一 舟の暮平

四 舟中 一 舟の暮平

一 舟中 一 舟の暮平

一 舟中 一 舟の暮平

四 舟中 一 舟の暮平

五 舟中 一 舟の暮平

五 朝まゝの如く日掃除の如き

二 洞 盪まゝの喜の如き

四 教えくゝの如き

五 移 轉の僧の如き

一 天 離 あまのこゝろ 鄙まほし

〇 度よらんかの鞍く

第二集 六花樓 蘆山

四 曉の坂東聲

二 山 田の妻も

一 格 別のみ

一 河 まゝ

一 さらく

二 扇まゝ

五 百里行牧のわらわし五 幸平一

一 満ちてくればおのころの輝

四 さらさらと海に花を火の二海

一 名もく川 輝の二人おらる

四 うねもも徳徳のむし初と

二 丑茶あつらふに ねい 佳ひ佳

四 木樨の志きりま白ぶ 春の月

八 江戸のふゆに 娘 夢 僧

二 ねえとねえとあはれな九 姑 兒

一 谷中へ 降りる 滝のこころ

二 ねむりとわがこころを花も枝も

四 ねむりとわがこころを花も枝も 蝶のうらみ

五 魚相 一 次子 五 後子 五

一 衣子 一 智 一 也 一

四 薙 七 柳 七

三 秣 一 武士 一

五 属 一 託子 一 新 一 檢 一 巡 一 使 一 の 一 名 一 と 一 新 一

一 中 一 の 一 濤 一 一 夜 十 船 一

五 蝦 一 夷 一 の 一 着 一 と 一 の 一 着 一 の 一 着 一

一 利 一 生 一 一 然 五 一 勝 一

六 雷 一 一 柳 一 一 也 一 一 也 一

一 朝 一 一 物 一 一 也 一 一 也 一

四 書 七 一 也 一 一 也 一 一 也 一

四 一 也 一 一 也 一 一 也 一

五 蘭花を香と鄰家の砵の風の音

一 涼しい夕べのうららかなる時

四 粥腹の子日と清る滝の音

一 夢あ夜の口宜といふあゝく續

二 嘆かす花の友とまほしく

〇 古きと綿とあり桃と餅と

第三秋 中人尊馬琴

四 稻妻や雲と何とて蔵五堂

二 鉄燵の籠も木かづれの月

二 秋風と野の尾花もさかしく

一 仙丸額児のまゆと

二 枚原の十部とあまの羽と

一 軒子蟬鳴く宿志つらく

五 日海多〜 陸嶽の大もゆきん

四 合浦の風平 収船と結

一 弓の平 裂き〜 あり〜の玉の輿

五 紀名之 渡〜 平 是事と短

五 栗の樹の 三〜 七 平 子 暮 不 秋

四 多 峯 あり〜 麓 七 菊

四 五 斗 米 平 摺〜 古 七 平 月 友

一 聖 書 の 牝 七 平 中 一 妙

五 聖 人 も 確 言 論 方 便 平 嶽 梅

八 聖 人 七 平 端 七 平 牛 七 平 七 五

一 九 聖 の 都 邊 七 平 毛 花 の 氏

二 聖 辰 の 上 平 終 結 出 雲 山

五 子ねく 子ねく 清きく 雑よあま

四 境よあま 日も 土敷の 色を致

一 膳おる しの 文ころの 世ころ

一 古い 形ひ 法 出 雲 風 ち 紀

四 雑 採 も お 併 じ ころの 唐あう

四 ころころ ころころ 山茶花の 香

一 此 香りと 氣の け 継子 文 紙

一 婦 とも お 寄 平 中 ころ け

五 姑 母よ 志 ね ころの ころれ 茶子 撮

二 八 日 ね 舟 平 七 夕 ころ 積 じ

六 羽 織 ころころ ころころ ついも 油の 月

領部 候七

四 かし ころ 下 小 ころ 人の 顔 色

- 四 いらぬのー河とこも河を杖所
- 六 妻の庭りきりきりきり龍
- 一 坂神の翁女の婿より海
- 一 祠子一宮塔り後さうり
- 二 菅笠の注しめ又し花の法
- 〇 種梅並り民の富

第四冬

苔中舎
孤遊

- 四 神言や智恵ある年の玉帚
- 二 冬の梅も白く枝山灰
- 一 丹頂の鶴の色も紅く
- 一 山と遠水の横津
- 一 新巻は河内林の月能事
- 二 空を渡る鳥の黄く

五 遷宮小伊勢へまゐりて 石の竈

四 菅の小笠も 折よ 一陣

二 夏書よる 硯も 碓の 粉平入

五 庭の 稚も 継平 隙に

四 妹と春の中も 和琴のやけ所

一 妙 する 日暮さしを 流し 音有

四 遊し とき 鳴く 魂棚の ころり

一 寺の 如奉 加平 角方 何ある

五 縣 菅 今士の あり 如 節 兜

三 洲 起 返り 山 公事

六 玉 降の 西も ちと 花の 陰

一 跡 ちと 衣の 暮し 延る 以

四 蟹のこしの中身男女の老くさり

一 湯田の乳干し 靴と髭と

五 晴〜と曇の揚屋のうんこ香

四 淡人の夢を〜と日初〜

五 光陰も積るとハ 膝子様子

一 痛まぬ杖と〜とハ 孝の

一 山ありと先く 樹ありと 紅葉傘

四 椀干し 冬菜のひ 唐の珍客

二 院の干し 寄書函のうんこ屑

一 滝ありと〜と 銭の白さ

五 芭蕉の葉の波の〜と 月夜

一 河〜と〜と 舞榭の根

四 乳葉の子姑の素も厚の多
 四 後の瀧形も厚情
 八 第船も圍の紀念乃落煙
 一 能治物を好も小治
 二 戲立も咲物も了る元了四
 〇 長別も死る四〇のま丸

行司完來

大関

馬琴百十

関昭百十

羅文百十

小結

楓百六 山百六

行司嵐亭

大関

羅文百十七

関昭百十

馬琴百十

小結

楓百六 山百六

天地人

三條線の

引

らんつとん

右題俳諧長巻巻末

曲亭馬琴

判者

完來
民玉西評

月次第六席

俳諧之連歌百韻

表八句月七句抄撰筆唯

内月七句持

辰五句月十日昔抄亭

無行 各十九句言

一 蘓山

羅文

馬琴

催至

抵遊

○完來評

△民玉評

上 船鉾乃竿の

糸や 砂糖水

瓶縫

1 概子

雲の波も風も
構の原もまよも 卷上

執筆一人を

眼の光もえくも 百里の縁

る道空の声も

智と又る新も 捲く糸の月

筆と九曜の華

樂危四の如く上総四の歌舟二を一

引一の如くあま二の如くねま二の如く一

船上キハタの鞘一を一甲一を一出一る一を一羅文一

雨一の如く一山一馬一

方寸一の自月一は尺一積一る一歌一の地理一庭一

師一を一知一る一を一牛七の脊一を一眺一望一夢一

屋一の如く袋一の茶一器一も一茶一器一を一山一

津一の如く隅一子一這一る一有一月一

田一の如く茶一版一の如く一歌一を一庭一

麻一の如く一か一も一白一く一文一

少一船一の如く多一女一席一の如く一生一を一情一山一

鏡一の如く情一を一集一る一を一日一夢一

閑一威一の如く一宮一の如く一羅一

藤一の如く羽一折一る一を一あ一る一羅一

棟梁の縁圓川四も四も四も
 新部撰五て我四志四於四の四荒四烟四
 巢一お一方一の一氣一ふ一り一と一る一露一の一雛一
 加四る四用四居四子四狐四狸四の四き四信四
 杜五小五候五も五り五子五あ五ま五人五の五世五時五
二け二以二判二小二信二の二風二声二
四代四磨四生四と四旋四心四歎四の四基四管四枕四
五文五 施五 琴五 文五 琴五 山五 文五

五名五を五彩五る五云五八五屋五う五亭五
四せ四の四れ四る四い四逢四も四籠四の四妹四背四小四
一於一子一の一母一乃一顔一う一そ一の一如一う一
五雨五鳴五る五軍五形五を五一五吹五の五丁五息五
一菽一う一ち一梅一子一政一仕一の一上一衣一
一沈一濁一る一世一を一滄一浪一の一水一の一月一
一い一し一の一所一よ一交一る一蟀一
七文七 琴七 施七 文七 琴七 施七 文七

后風學入る余のゆく旅の秋

徒男の送るの袖のあはる

一揮賣あはる市の熊鷹

玉椀目あはるせよあるをや申神

浪世界渡屋の後の志如堂

一沈みよあはる塘ふもあはる

八龍琴山文

九七九

使者とのいこ新町の志如

二出船をるるのりる菱の板

三牧も清もあはるそし細の月

四散る名前のあはるひよ花も別れ咲

五舊斤あはるつよあつあ

六龍文

七山

八文

九

一〇

^四 玉綱子解虫も千とる^四まの風
^二 繩子も長た^二中井の深里
^四 流り^四千^四者^四う^四通^四る^四善^四の^四昌
^五 純^五の^五伽^五羅^五も^五う^五へ^五る^五雷^五
^一 太刀^一底^一の^一子^一も^一目^一の^一至^一節^一兜
^四 武^四と^四忘^四れ^四ぬ^四山^四の^四面^四目
^五 吹^五枝^五の^五回^五廊^五を^五ま^五す^五小^五敷^五衝

十 九 十 十 十 十
 十 十 十 十 十 十
 十 十 十 十 十 十
 十 十 十 十 十 十
 十 十 十 十 十 十
 十 十 十 十 十 十

^一 變化と矢^一乃^一あ^一る^一ま^一る^一病^一
^一 家^一癖^一も^一酒^一徳^一の^一頭^一も^一書^一を^一あ^一ん
^二 旅^二と^二虎^二溪^二も^二老^二の^二心^二笑^二
^八 糸^八も^八風^八も^八衣^八足^八の^八流^八の^八琴^八
^一 虫^一も^一重^一の^一音^一も^一所^一も^一月^一
^六 虫^六も^六行^六音^六の中^六
^一 石^一の^一地^一も^一村^一の^一人^一板

十 十 十 十 十 十
 十 十 十 十 十 十
 十 十 十 十 十 十
 十 十 十 十 十 十
 十 十 十 十 十 十
 十 十 十 十 十 十

色を捨てし身も一ひの後の徒

河津波の神よ小糸さそを婿

櫛のききふあまもあまの毒

杖子若雨をとまける侍亮

孫彦小曠を秋年のかたに

歎の岸も完筆る曲突

弟の戸子も来空の松の戸

十一
籠

十一
山

十一
文

十一
琴

十一
文

十一
琴

十一
文

簑を捨てし身も一人

鱒引演と建と沖の月

冥木楚東南よ浪河縁

孫武子の女兵標る盆

初冬の去り唯象掲

田螺啼ちるあまの花白雲

陽を晒せ鶺鴒のくらさく

十一
山

十一
文

十一
文

十一
琴

十一
籠

十一
籠

十一
籠

^五 菱織る兼子糸もまゝの隙

一 ^六 下衣を履き足る御衣

^四 菊鞠を汲みたる縁の格柵

一 ^五 ちりばめし名代の寄も常湯

^五 ちりばめし名代と終る秋の泪

一 ^六 酒を飲めぬと流る生首

^四 風子版網虫の吐き書

十七 文

十六 旋

十五 琴

十六 山

十六 旋

十六 文

^五 小貝のよしみ様散る沈

^五 二舟のあはれもあはれ

一 ^六 白雲下り里菜もあはれ

^六 幻の女貌姑射の構のそく隠

一 ^七 他家の壺の中茶も自在

^四 月を友影をおもひあはれ

一 ^五 秋の螢のよしみ

十七 旋

十六 山

十六 旋

十六 山

十六 琴

十六 山

十六 山

^四 白露子眉の赤い糸と^一 菊草
^五 席画子碗る方丈の糸
^四 婦をこりふの龍のくく透る
^四 いさ正妻の百ささりさや
^四 糸を糸の糸の糸の糸の糸
^一 九糸を糸糸糸糸糸糸糸糸
 まきの山川を流る糸糸糸
 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十
 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十

十一
 花糸...
 十二
 糸糸...

Handwritten text on a small paper slip attached to the top of the left page.

白露四子眉の糸五に四結五る四翁六草七

席画五子六碓七る八方九丈一〇の一一糸一二

姉四に五ま六こ七子八り九ふ一〇の一一池一二乞一三の一四ん一五く一六透一七る一八

い四さ五正六菱七お八る九さ一〇る一一を一二さ一三や一四

卒四と五糸六の七子八筋九の一〇去一一る一二を一三い一四ふ一五

腐一木二を三い四は五り六ふ七落八牙九の一〇傷一一を一二

丸一を二を三並四ぶ五こ六と七糸八を九い一〇く一一俣一二ふ一三

ま一ら二の三山四川五を六渡七る八み九を一〇

左 左 左 左
つ っ っ っ 考 文 山 總

判者 完未

月之初席

佛語連詩百韻

寬政九年正月十六日之席

舊山亭文且堂開興行

各座十六句批筆二十句

羅文

松遊

舊山

馬琴

時得

名簿因一順

遊主

舊山

馬

松

文具堂の記

四
舟の贈の地も

徳山

二見作

臨ひか

二
とんちの節の神の心の富の客

一
蜂の巣の籠のちの舞の酒の美の樽のま

一
若き清傷ののの風の鋸の層の近のいの入の糸のもの結のものこの

一
織のものおの様のおの返のはの山の掌ののの月の并の舞のはのあのあのあのあの

徳あるよ東のよ中も芳く見く 羅文

其名の神太刀平誘ふを信 極遊

あつたるる流如常は殿くこもせ哉 葛山

還城樂と軒のころ風 馬琴

一夜文く瓦燈の月景睡れ月 抱

雲脂と流くこぬ志の病人 時得

おもはるるよあはれ神の自東杖 望

丑 薩の信書良も何きく七里 文

一 名流の英剣長者有城小宮節 望

一 白深浴衣の持ひ百反 山

一 張ひくろ寝懸送了の村境 泊

一 月夜庭をく又六つ川 づ

一 鮮朝の鏡と雪吹の神橋 北

一 雛角亮のくふふ鳥よる づ

室積のまゝおのゝ後と性ニとく

男自煥のやうく文裂く

一 壇のぬ椽の系腕の忘れも

四 器ニ意ニの秘曲ニ終ニ人多

一 心ニ然ニとニ去ニぬ夷ニよりニ遠ニし

一 今ニ指ニあニくニ水ニ主ニのニ述ニ懐

一 橋ニ遠ニ使ニよりニもニのニたニくニ長ニ無ニ歳

心

心

心

心

心

心

五 春ニ行ニ一ニ独ニ園ニのニあニす

四 古ニおニよりニはニりニあニるニ深ニ木ニとニ扱ニく

一 乳ニ母ニゆニ氣ニあニくニ衣ニのニ後ニ見

五 二ニのニ針ニをニかニつニくニ送ニるニ指

一 七ニ隠ニ居ニるニ久ニしニらニのニ寺

二 新ニ雪ニのニ隈ニもニ晴ニりニ朝ニのニ月

三 旅ニ泊ニるニ万ニ里ニのニ秋ニのニ残ニり

心

心

心

心

心

心

心 心 心 心 心 心 心

五 沼智の巻もくもきき今年度

四 中龍の岡平三布唄

三 書札の巻もくもきき今年度

二 実録の巻もくもきき今年度

一 歳後り候る此巻の袖鏡

四 ささくは如房の屠衣の巻鏡

二 月波の巻もくもきき今年度

七 抱

八 抱

六 山

七 抱

九 抱

六 山

七 抱

一 舟うぬ連ぶの秋季抄

四 大願寺抄持の僧のり

五 旭平向ふ南殿の巻鏡

一 石蔵の巻もくもきき今年度

一 神事の式もくもきき今年度

一 けいもくもきき今年度

一 ますめくもきき今年度

二 文

六 巻

七 巻

七 山

六 文

一 文

一 文

五 陌頭子馬系控く師よ山

四 駭系しよしよるよらるのよ

三 華魔子血噴るよは結妙り

四 厨字八字の書箱の書案

五 甚片の火虫いぬや〜更や

一 追れ〜も〜も〜の〜する

八 身と控る〜も〜も取川船いぬ

七 文

八 文

八 文

十 文

七 文

八 文

八 文

眉、八字のわかれの文章と又解しよしよるよらるのよ

一 いつ〜も〜も〜の〜する

四 だ〜も〜も〜も〜の〜する

一 妙い法事〜も〜も〜の〜する

二 妙い法事〜も〜も〜の〜する

七 書の内容〜も〜も〜の〜する

五 書の内容〜も〜も〜の〜する

二 妙い法事〜も〜も〜の〜する

九 文

九 文

十 文

十 文

九 文

九 文

九 文

五 陌頭子馬系控々山

四 扇系しよじりるさるのさ

三 華魔子血咽つるは結妙

四 厨子八字の書案

五 甚此の火虫いぬや〜文や

一 追れ〜も〜の〜する

八 身と控る〜も〜取川船いぬ

七 文

八 文

八 文

十 文

七 文

八 文

八 文

一 いつ〜も〜の〜

四 だ〜も〜高脚座の

一 妙の法事〜旗の

二 妙の法事〜旗の

二 七書の意と無〜

五 吉流るをとの旗

二 藤流るをとの旗

九 文

九 文

十 文

十 文

九 文

九 文

七 文

我寺に流く河の雲有山

一 祥世子アノヤノ見候一年

一 朔風よ船よえ河ひもふあし

一 意平 朽ふん夫も後お

二 ツ子めを飲る小娘指

四 血の舞兒平 影なる顔

五 五月雨子懐もちの二席寒生

山 登 山 山 地 地 山 山

神平 餘香と包む茶湯

一 宗易子茶葉とと茶作

二 名護屋水津も三年の鴨

二 出子りおく本卦之了のふの月

二 領部使もちれのお丸

一 了入子愛の足ん娘 完

一 草綱乱も標のふら男

文 地 登 山 山 山 山

身も葉も高ひくの好もか威

橋結く結つて音の云々

誰れも星のおらひる汗跡

泣子と〜と平ゆ。着店

生垣千尋多勢。絶句交

尚歯會まると寒くる君の節

十二文

十二

十二

十二

十二

十二

一 浅衣の伊達も羽伝

一 荏菨子と世と抱ふ御梵端

一 六 富田と立籠りありて

一 六 衣言よ清よ。長衣も東曲

一 一 向の癖もあつて七癖

一 二 小田の葉山子も村の人

十二

十二

十二

十二

十二

十二

五

お位多も大仙陵の姑と婦

五

世系雲の氣と所輪藏の棟

四

片更入心つゝの石の借所

一

母のすゝめゝお好所を地

四

少をたす様とせぬの了と

一

指も鶴平ねる中地

五

日方群子候と所を雲る花衣

。

お玉章一平一文意のま

山又文坊坊坊坊坊

天馬琴 六十

地 五十 羅文
人 五十 蕨 山

佳客と逢ふ花のよ車

海苔庵の枝折筭へる水まじり

百里の及もやまきあり

旅をまじり列中一雨合羽

牛の角のふらぬ角のま

樽のひびく酒のうらむる

やまのやまに少技むねのた

淡紅色の文字が透り出ている

洞底多よ羽摺れも秋の古吹女 馬琴

帆柱ぬしゝ室の初約 瓶籠

誓と命よ撫ゝ常そゝひ 蕨山

見入れし腕と糸をよむ 羅文

懺せられし縁書の纏帯 籠

こととせの任子折言ふ正年 文

そゝの重しの劇明のしと鶴の声 琴

判者

完來 兩評

民玉

月次系二席

俳諧之連歌百韻

馬琴 瓶籠 蕨山 羅文

寛政九年丁巳春二月十日

右一願谷十八咭

芳州舎興行

東道

表八月花折端

芳州

執筆吟

完末矣

民玉矣花批言也

四
二
之
ら
は
あ
ぢ
や

秘日春宮の

庭香爐

瓶籠

二
二
佳
か
あ
と
逆
ふ
花
の
道
車

秋車

一
二
海
苔
藤
原
の
枝
折
筈
つ
る
水
ま
り
よ

一
一
至
望
の
后
も
い
と
や
ま
け
る

一
一
猿
多
き
う
く
列
み
一
雨
合
羽

一
一
牛
伯
樂
の
知
ぬ
角
の
字

一
一
樽
の
し
り
吹
ぬ
る
朝
の
月

一
一
衣
の
ま
ま
ま
摸
む
其
袖
の
戸

五五

飼 鷗 鳥 羽 摺 れ 蝶 の 左 寄

鳥 鷗

帆 柱 め づ 室 の 船 舫

帆 柱

一六

髻 髻 髪 子 撫 々 常 々 山

蘓 山

一 尺 入 れ 腕 と 髪 山 位

羅 文

二五

幟 巾 も 有 せ 侍 毒 乃 緞 帯

龍

一 こと 世 の 任 又 折 言 百 由

文

五二

を 一 舟 舟 の 関 船 行 鷗 の 声

鷗

二二

一 袁 彦 道 乃 後 乃 知

文

一五

七 竹 の 流 守 振 不 費 其 秋

山

一 鯨 小 澳 の くらむ 神 伊

龍

三三

吹 折 舟 々 輿 寡 孤 獨 の 松 の 月

フ

七 一 履 の くらむ 巾 出 せ 志 志 山

山

五五

一 一 蹄 々 蒼 々 岩 々 の 音 々 山 滑 々

龍

一 一 陽 々 水 々 濁 々 肆 の 欄 干

山

孤松の月 孤獨の松の月 輿寡 孤獨の松の月 詩もよく 山

白作 山 山 山

三八

雷をえし被もとれき地極

文

一 玉障の角も落る千急

文

二 糸舟も産毛のすしの音智識

文

三 山田の苗も葉落る雨

文

一五

一 文子所は昔も新人の音

文

二 近江の新秋新 荷生揚ふ

文

七二

白果声も奏吉了も高似るふ

文

一 髪舟も尚あるも蠻客の伊達

文

一五

人志もを去りて縁る袖の衣

文

一 高日の斬も月の影も

文

一五

吹をけり寝神除のれ秋

文

一 忍の細うら入城の川

文

一五

忍の院母の川さきも身もせり

文

一 瀬戸をさうりて風一羽

文

かろふ此秋の衣もせり

三六 肩衣の布子あやふと流る紙

一五 嘆く人のこれ翁圃

一五 張樂と響くうめと琵琶の曲

一五 二一の里に花と松風

一五 破れ帳も釣れは容貌射の別世界

一五 江湖の傳乃飽ぬ面壁

一五 追別のこれも解脱の様甄

紙

九文

六琴

七

七施

七山

七龍

一五 世獲生這出るう川蟬の合龍

一五 かる野ふ子引のふも月の環

一五 秋声言く八陣の沈

一七 懐蕪の西鏡ふらぬ赤源

一五 腰るおのひとこのころ出せ

一五 初を子垢つゝ小神所

一五 澤色の水草摘む彌南人

八琴

七

九琴

十文

九龍

七

七

一五^ニ 雉子^ニまゝむし^シを啼る者常田

山

一^ニ 氷^レ杖^ニとこのむし^ニまゝ

山

一^ニ 竹^レ垣^ニは長^ク屋敷^ノの千代^ニおき

山

一^ニ 管^長法^ニを^レ川^ノめ^ニる^聲蟬^ノ打^ノ声

山

一^ニ 雲^ノは^レ枯^レ法^ニ深^ク津^ノ敷^ノ人

山

一^ニ 龍^ノの^レ部^ノは^レ志^ニぬ^レ鶴^ノを^レひ

山

一^ニ あ^レう^ノの^レち^ニよ^クえ^レて^レる^貴

山

一^ニ 万^能膏^ノを^レあ^レら^レる^力蔵

山

一^ニ 志^ノは^レ浪^ノの^レ事^ニと^レ何^レ物^ノ行^ノも^レん

山

一^ニ 清^攬あ^レる^清水^ノを^レさ

山

一^ニ 面^ノは^レ氷^ノに^レ率^ニ部^ノ海^ノを^レよ^クく^冬事^ニ

山

一^ニ 二^ノ界^ノ先^ノ店^ノ後^ノを^レぬ^レし

山

一^ニ 方^ノ急^ノの^レ新^ノを^レあ^レら^レる^月

山

一^ニ 二^ノ百^ノ十日^ノも^レや^レあ^レる^山

山

附方事

④
六

輪船のつとをこぼるるはるる

琴

一 刺衣の袖は漉子まや

山

五 寺方一肩の玉の鬼の控紀

琴

一 園も悟るは胡狐隔る

結

五 比色あゝの葉生ゆるるる

結

二 野狐は岩る入定の塚

山

六 健胃の弦喰志めるる

結

一 木の丸殿はあゝ子山風

文

一 小松志んと遠の磯はほめ覚

山

一 片は月

月

七 海つと柳をこ舟つと

琴

一 玉降魔は及の紀の年

結

一 緞衣通しかくえうある花うら

つ

二 水々山々も世教入の沙弥

つ

こまめさかしくハカヤウ室中の早よの分子のえん

そ外も分ちをかくはよる福をえん

又六
又十

12 蚕まき草履に綾子も葎の中

山

11 大事よきしし懐る甲令

福

10 卷向の檜林も伐つり

琴

9 器よ鳥ししる元帥の令

文

8 剣先建りの氷斗建ハキサス之をよびる甲兜

結

7 舞の建ハキサス之一よよ泉月建ハキサス之注せる

山

6 あやあよよ乞食の娘英し

琴

5 料理の物しし底も太く

文

4 川岸よまきの隙を基も乃よま

山

3 窓よあ声浅る曉の懐

琴

2 筆妙よ弦ししと糸ゆる兆典主

山

1 正歌しし海し安いその中

フ

12 白のけし糖少新きく香の月

フ

11 鳥よ交る鶺鴒の成群

フ

五 蝶の眼よりさきりし下 如き子 裁
 六 度少し物 行 各の大魔 裁
 一 淡香よ新詩百遍酒 吟 〇
 一 明列の清と出る 仲 〇
 六 ち 〇 苗さき日 〇 友ちとり 〇
 一 欄台の彫り 〇 〇 〇 〇
 二 奪目の花よ 〇 〇 〇 〇
 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇
 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇

完来矣

天馬琴 六十六矣

地羅文 六十二矣

人蘇山 六十二矣

氏玉矣

天 抵 縫 七十六矣

地馬琴 七十六矣

人羅文 五十二矣

卷中△台リ以 照者さる句ハ之れ初葉の句にて
 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇
 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇

氏玉の批判 ちあやまをみるを依
こるや又そのあやまを二句一
朝老鳥菴文一編を綴りし
列巻のあり

新刊

不能膏をある古刀底

志う浪の素も何れ新らん

清攪文々々清派を喜

百洲此の率証母をさく冬重

二界先居後を死ぬへし

方急の勢さし向ふ急の月

二至十日しやま〜誠行

禊

山

禊

禊

禊

禊

禊

以舟の冬島舟を以て舟と川
下りの神子泣子也

Faint bleed-through text from the reverse side of the page.

判者
完来

月次初席

俳諧之連歌百韻

宝元政十年春三月廿日
芳中亭興行

表、章月七拾端
執筆於

欠席

山

羅文

馬琴

淡矣

^七孤

各十八句言

吾妹子二

新く多れ蟹や

桶乃菘胡

改家の松も澤神の沢今二

空久早寄の千里寄く籠子三

三十一ふなもこの玉ゆり

ら〜いひ〜ま〜童名の去存一

風よる智も方の揺や一

虫筆よ新も月の夕々一

籠よ薄の若袴組三

五

赤坂のつらきふのむらじゆふ

馬琴

一 豆挑灯も開帳の燈

羅文

一 茶屋の噪りとの果し指され

瓶籠

五 五月の雛子も喜々し一の流

琴

八 赤や黄んちと虫窓の板をなま

文

一 二 裡子別々博子ふゆ

籠

一 怪しむを河らぬ僧のそるまじ

洗矣

一 石深処を花地了了相

文

二 一から啼却り給の月のみ

フ

一 折戸押ハをら〜

矣

五 笑〜もあ〜と去と掩ふし

籠

一 二 船も宰府へ既二日路

琴

一 花の雲うを照く〜山をささ

フ

一 井子橋〜秋逢を麦

フ

所^三とくそ 蚕子^三を糸^三を^三ねと^三麻^三魚

曾^一良ハ 任^一子^一こ^一ま^一る^一小^一便

摺^四酒^一一^四硯^一の^一墨^一も^一糸^一ね^一の^一次

和^一法^一の^一も^一も^一踏^一き^一を^一あり

折^五よ^一も^一か^一る^一を^一と^一あ^一る^一を^一不^一し

娘^一子^一物^一を^一み^一帯^一四^一一^一を^一重

お^一も^一と^一ま^一も^一神^一と^一引^一る^一自^一在^一淺

笑

笑

笑

笑

笑

笑

笑

至^四お^一流^一る^一に^一忙^一然

常^五し^一も^一有^一の^一所^一ある^一に^一垢^一世界

提^六を^一籠^一を^一心^一を^一了^一る^一願^一伽^一楠

折^一果^一を^一や^一つ^一て^一あ^一る^一キ^一ヤ^一カ^一ウ^一ハ^一ア

東^四埔^一塞^一凡^一の^一蔓^一を^一卷^一倒^一を^一垣

吹^一つ^一ま^一の^一浪^一人^一誘^一る^一舟^一の^一り

小^一井^一を^一又^一あ^一る^一十^一羽^一め^一の^一了

笑

笑

笑

笑

笑

笑

笑

三 酒糸吹く一層楼の辺りあり

四 帆を千尋の糸も中入

八 石を化す君の星の魂

四 又キ十五 幸よ糸帯しる河内路の縁

五 切る糸の焼く火の消く

一 和細の世に振るるや

二 御糸よ口毎に糸の糸帯に

六 文

七 文

九 文

七 文

十 文

八 文

一 ぐんま尻を肩ぬる角切

五 旋覆の花もあつゝ温泉の日記

一 後のこころをこの心とせ

六 秋も来る冬もく筆のうしろ髪

一 糸帯の風はなをく渡す

一 かも針は瑞帯しるや白糸

一 日とあんのうと柿を

十 文

九 文

七 文

十三 文

七 文

七 文

七 文

白菊二子水も雪れく濁田川

七
美

今二子之世さあふ矢一筋

六
か

使胃う部氣の流も注るく

七
美

堀く苦く並雲の隈

七
結

多の流方そくく在交鞠

七
美

令苦く重るく草鞋の肉利

七
美

輝く馬羽玉味骨く夜列

九
美

危の巾着麻のえや葉はく

七
美

草葉下被をさくくゆやま

九
美

少る鏡よ早咲の箱

七
美

分よ清ら糸縄目と欠くれ

七
美

活鯉光る網産の層層

七
美

版切よ月福のくまめ

七
美

子る墨水を解くく

七
美

二
初の事も一葉の竹 散る 糸の巻

龍

五 任の巻きさる 糸の飽り

文

六 翠色法師 ねも世の終り 更とあ

文

一 野水の流の 風は波の

文

一 室の清を おひきり 帆のあかり

文

一 矢曲なる 友の 呼

文

二 吾も二つとあり 渾天儀

龍

一 悠の杖 和膝 九持

文

五 大悟る ともも 多ぬ 眉の糸

文

二 山を 踏く 藪 鞠の糸

文

五 中くよ 風は 根 泣き 離れ 糸

文

一 顔の 方へ 友 近の 息

文

一 三月の 衣よめ ぬれ 花うら

文

一 糸の 日 輝も ねの 糸の 糸

文

^{十一}まゝにまゝのりものるの愈々

一 ころれし中し定の鼻を

^{十二}属諷をも脱免の誓ひあり

一 系法をくく余を記る舟

^一風入よ自の舟是くの縁を

^五氷室ハ冬へ海を首を

^{十二}作塵生と師見くんきるみ津

^{十一}文

^十龍

^七矣

^{十二}々

^{十六}々

^{十二}龍

^{十六}々

^一皮名はのらふ飽ぬはら枝

^{十二}鱗の鱗しお這入尖改戸

^一人命ありりりぬる母と心の井

^五象深をと魚の形もくをせし

^一羽之と根川の身も玉の薬

^二あゝ重なり媚る常嫁の唐化粧

^一流川守るむらさきも

^{十七}龍

^{十七}矣

^{十六}々

^{十六}龍

^{十七}文

つ

つ

^{ナリ}家納 ^ニ海 ^ニ十日の菊を

^五自利の飯頃の膝下踏る雪

^二禪よき安の空方ぬくめる

^一夕朝の川の流れ

^一惜 ^一け朝 ^二この誓

^二白 ^一く下 ^一不 ^一信 ^一く ^一信 ^一志 ^一有 ^一る

^一梅の空 ^一ま ^一よ ^一く ^一る ^一額 ^一中

ナリ

ナリ

フ

フ

フ

フ

フ

^{七十一}地羅文

^{七十四}天馬

^{五十一}人狐

完東列

月次第五席

誦詩之連歌百韻

定好年成年歲

二月九日

能矣

羅文

馬琴

蘓山

以延至

瓶旋

天...
...
...
...
...

夕白四

垣了矣

裸了

振

三 清水より多し甚く其初め

積の多維のりしとく日所

河のりしとく海を

い中より多しとく難

筆の骨を流る

視る羽の月えのりしとく

千るるのりしとく

執筆

五 周角力汗目も高扇狭巻く

三ノ

五 若んあされ工老傳の伝

三ノ

四 あやみくよ浅るるも伝に下簾

三ノ

五 船と床とる幅子割水

三ノ

四 秋汗もまゝ一巻の十里亭

三ノ

五 子年の地を杖突の松

三ノ

六 秋蟬のあうと志とあはれむ

三ノ

四 一 月をさすあつきの解

三ノ

一 やくき七箇の伏方水院

三ノ

一 鳥帽子も脱し石れ海中

三ノ

五 二夜めとる懐の上の波は衣

三ノ

一 船より遊らるる叫飼猪

三ノ

一 花白あふの丁ねる好水泉

三ノ

一 布子さるるかゝる月の汗

三ノ

四 昔の心を疎もほし〜のるを中念

五 舟はしし 駕みき 船のき

八 意 礫南〜里もゆるぎあるぬ感

一 下の句ありあ〜の重垣を疎

四 中〜のちのぬえ〜のまを子ゆづ衛

一 色ふもろ〜の絶〜毎意

二 賢らさ〜めららの母を救ふは

四 吟

五 吟

六 吟

七 吟

八 吟

九 吟

十 吟

四 浪花も渾もえ 淋〜も

一 ち〜世と又あるし〜の春をえ〜

五 夕日の糸とあ〜流の後

一 舟〜と焼煙も風の舟をひ

八 水口と能〜も脱仙の権

一 去年の細ぬ舟の光は照墨

一 花枝りか〜る花のりあ

四 吟

五 吟

六 吟

七 吟

八 吟

九 吟

十 吟

六

江戸の鶴屋の眉のそお

七 抱

四

一 中流の碑

八 抱

五

君の任る矢のいも風流

九 抱

四

おきみ松の風のほそあま月

六 抱

五

一 一 師とてくる

八 抱

やうなま 芥子 芥子の遊さ儀

七 抱

一 融り 味子 入交白 結

七 抱

あやうし ちぢ切る 階敷の玉の汗

八 抱

一 四 浄土の難難 替り 絶り

九 抱

五

山も流る 吹きよる 午員

九 抱

一 一 面より あま 雲の 迹 脚

九 抱

一 緋法 の 袖 形 別 毛 月 毛

一 抱

一 一 お代 ころり の 人 の えき 風

一 抱

中名の葉子にけく妹の血を

十 文

一 守る履も甚乃る日貝

十一 文

二 花塚にけくか花細清

九 文

一 日や市の子る後けの紙

十 文

一 龍との名と子引の名子眼を

十 文

一 知識の借の借も紙を

十 文

一 白垢易の四友を牛の鞍を

十 文

一 陌氏串の舞もあし梅

十 文

一 兎もく向の鏡子自画の像

十 文

一 社檀子落ト山鳩の巻

十 文

一 流水子吾らる巻る紙の巻

十 文

一 志の行の猫と溜る月

十 文

一 三の甲の袖に摺るる巻る巻

十 文

二 薪を移む川の流る

十 文

四

六つはうく 枕より寝るく 糸車

十一 矣

一 さほまを 霞の目と 緋威

十一 文

凱陣より 矢も 山呼 吼るなり

十一 矣

五 湊 途より 寸馬 夏人

十一 矣

四 生 命より さ月の空の 雲を 夏

十一 矣

五 刻 筆より くら 笈佛の 儀

十一 文

一 春より 八と 斗着子 さらん 洞

十一 矣

四 躍 活名も 三月の 春

十一 抱

一 白 糸も ころ元 高 舟の 暈

十一 矣

二 二 至 十日 乃 室より 風 約

十一 矣

一 産 心との 中を 中絶く えるさ かりく

十一 矣

五 終より 春 祈り 伽の 流 順

十一 矣

一 散 けり 減る 花を 纏も かりく

十一 矣

一 第 一も せし 花より 急るく 春

十一 矣

十
五

玉うき未登殿もる家のまきけて 十六文

一 老婆一群分夜古連 十六文

えしけの神海ささく十字街 十六文

一 おしと不のくさめる酒 十六文

三 振泊まうの震よけられ 十六文

四 古より船の取自在 十七文

四 大幣の引よけし 十六文

一 いとゆられの逢橋 十六文

一 半多取各われ 十七文

一 猿面もよ 十七文

四 江漏海子波天の船 十七文

六 法問う 十六文

一 平月の物 十七文

一 目口入 十七文

十

五

三

四

五

四

六

一

五

子斗子あよ膝もかやま菊作

持

四

侍福も花吉の山河もあま

持

子奴あうもら解のうまの帯

持

三

うま心交よ粉雪を射る

持

九重の歌よ隣るち津石

持

二

酒肆の喧嘩扇の浪をうる

持

百株よおのくさの序破急

持

観よ入るまをくさ序破急

持

七十四

代 羅文

七十九

天 馬券

六十一

人 振籠

Handwritten text in a cursive script, possibly a historical document or manuscript. The text is written on aged, yellowed paper. There are several lines of text, with some words appearing to be "L'Esperance" and "L'Amour". There are also some faint red markings or corrections visible in the background.

Handwritten text, possibly a date or a specific reference, located below the main body of text.

Handwritten text on the left page of the manuscript, appearing as a few scattered lines or fragments of a larger passage.

